みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Session 3 : Amazon : The Art and Exhibiting Activities of Pablo Amaringo, a Former Curandero (Sharmanic Healer) of the Peruvian Amazon

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2015-11-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 永武, ひかる
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003495

元呪術師(シャーマン)の画家パブロ・アマリンゴの作品と展示活動についての報告

永　武　ひかる*

The Art and Exhibiting Activities of Pablo Amaringo, a Former *Curandero* (Shamanic Healer) of the Peruvian Amazon

Nagatake, Hikaru

1　パブロ・アマリンゴの略歴
2　アマリンゴの作品について
2.1　シャーマニック・ヴィジョンの誕生
2.2　作品の特徴
3　海外におけるアマリンゴ作品の展覧会と評判
4　日本におけるアマリンゴ作品の展覧会等の発表活動
4.1　展覧会活動を行なうに至った経緯
4.2　活動の実施内容
4.2.1　展示活動
4.2.2　出版，メディア，講演会等など展示と連動した諸活動
5　アマリンゴ作品についての反響
6　展示活動の反省点
7　展覧会・展示会の成果
付録：展示作品の解説

1　パブロ・アマリンゴの略歴

パブロ・アマリンゴ（Pablo Amaringo，以下アマリンゴと記す）は，ペルー・アマゾンの元呪術師（シャーマン）で，現在は画家として，また教育者として活動している。いくつかの先住民族の血が流れているが，1938年ペルー・ウカヤリ県生まれのメ

*写真家，元国立民族学博物館共同研究員

Key Words：Pablo Amaringo, sharmanism, Amazon, ayahuasca, painting
キーワード：パブロ・アマリンゴ，シャーマニズム，アマゾン，アヤワスカ，絵画

スティッソで，農夫や漁師などさまざまな職業を遍歴した後，1970年代に伝統的な呪術師として活躍した。父方も母方も先祖代々呪術師の家系で，父や兄も呪術師だった。西部アマゾンで広く知られている幻覚性植物アヤワスカを用いた呪術治療により，多くの人々の病気を治したが，1979年に呪術師をやめ，独学で絵を学び，画家となる。コロンビア人文化人類学者ルイス・エドワルド・ルナ（Luis Eduardo Luna，以下ルナと記す）らの勧めから，かつての経験をもとにアマゾンのシャーマニズムや精霊世界を描き始める。シャーマニック・ヴィジョンと評されるその作品は，とりわけ世界の文化人類学者やニューエイジの層に注目されている。その一方，地元プカルパで，1988年にルナと共同で絵画学校ウスコアヤールを設立し，美術を通した環境教育を推進してきた。この活動により，1992年，環境へ貢献した人に贈られる国連グローバル500賞を受賞した。無償で絵を教え続けながら，自らの作品を創作し，世界で開かれる絵画展では，独特の作品と教育活動を通して自然との共生を呼びかけている。

2　アマリンゴの作品について

2.1　シャーマニック・ヴィジョンの誕生

アマリンゴは若い頃から絵が得意で，独学で肖像画や風景を描いていた。呪術師をやめてからも描いていたが，風物画はアマゾンを訪れる外国人に知られ気に入られるようになった。ただし，呪術師のヴィジョンを絵にすれば，地元の人からは悪魔がかったと変に思われると恐れていたので，風物のみを描いていた。1985年，アメリカの生化学者デニス・マッケナ（Denis McKenna）とルナが，民族植物学や向精神性植物，シャーマニズムに関する研究のため，ペルー・アマゾン一帯を調査していた折，二人はアマリンゴがかつて呪術師だったことを知った。そして呪術師のヴィジョンを絵に描いてみるように請う。その依頼を受けて，アマリンゴはかつての経験をもとにヴィジョンの絵を初めて2枚描き，マッケナとルナに1枚ずつ渡した。各々が欧米のワシントンとストックホルムの学会などでそれらの作品を披露すると，非常に大きな反響を呼んだので，アマリンゴは，さらにヴィジョンの絵を描くよう要請された。以後，ルナに請われるまま，次々とヴィジョンの絵画を描き始め，ルナのマネージメントにより海外で展覧会が開かれるようになり，その作品はシャーマニック・ヴィジョンとして注目を浴びるようになった。欧米の画商やキュレーター，各地のコーディネータ

ーの連携があったとはいえ，シャーマニック・ヴィジョンというアマリンゴ独特の作品を世の中に送りだしたのは，ルナの業績といえよう。

2.2　作品の特徴

シャーマニック・ヴィジョンと呼ばれるアマリンゴの多くの作品に描かれているものは，アマゾンの呪術師が使う神秘の植物アヤワスカとそのお茶，アヤワスカを用いた治療儀式，呪術師と患者，呪術師が治療や呪術に使う精霊の歌イカロや粘液マリリ，アマゾンの密林に生息する動植物，さまざまな精霊などで，目に見えない精霊や呪術師の世界がわかりやすく描かれている。どのように治療をしたり，精霊と交信したり別の世界へ旅をしたりするか，また，民話的神話的存在が描かれている。赤，橙，黄，緑，青，紫など鮮やかな色彩が大胆に使われ，一つひとつが繊細に描き込まれている。円や螺旋，点々や幾何学模様が，写実的な密林の描写に混じりあい，視覚的な刺激もある。ダイナミックで力強く，呪術やシャーマニズムを直感させるような印象を与える。それは，幻覚性植物から作られるアヤワスカ茶の摂取によって経験される視覚的効果や，精霊と交信して病気治療を行なう呪術師世界が，平面上に見事に再構築されているかのようである。また，民俗的モチーフが物語りのように配置されているので，民俗絵巻物のようなものもある。さらに，作品には，世界のなりたちやしくみなどが描かれたものもあり，マンダラのようなイメージを彷彿させる作品もある。また，土着の呪術世界を脱して，宇宙空間や原子や分子，電磁波や宇宙波やUFOなどが描かれたもの，知恵，判断，勇気，純粋な愛など，人間に育まれるべき美徳を暗示するもの，人間の運命が比喩的に語られているものなどの，普遍的メッセージ性，精神性や宗教性のある作品もあり，ユニバーサルな感覚の作品もある。90年代後半には天使の容姿を思わせる精霊シリーズも発表している。

どの作品も，一つひとつのモチーフに意味があり，アマリンゴによって解説がなされる。

たとえば，「呪術師からの回避」（El Huida del Hechicero 1993. 8.20）という作品では，呪術師が知恵や術を駆使して，悪い呪術師の業から逃れ，患者に治療をしている様子が描かれている。下の方に治療師や患者が集まり，治療儀式をしている。鮮やかな緑色をバックに，中央には大きく口を開けた蛇が描かれる。口からUFOのようなものが飛び出しているが，それは悪い呪術師をはねのけている精霊の力を表わし，治療儀式を邪魔する悪い呪術師の使いであるカエルや蛇などが隅に追いやられている。

賢者を表わすインディオの祖霊，精霊を呼ぶとともに治療儀式の場を守る精霊の歌イカロなども描かれている。

「アトゥン・ワイラ」(Atunhuaira 1988. 8.26) は，大きな船の形に変化した精霊の絵である。アトゥン・ワイラとはケチュア語で，偉大な風という意味で，呪術師がアヤワスカのヴィジョンを見ている時に，驚くほどの騒音とともに大きな船の姿で現われるという。船は地球上の大地に住まういろいろな精霊が集まった変化の形で，地球を覆う大気が擬人化されたようなものだとアマリンゴは説明する。これらの精霊は地球上の人間や動植物など生物の命を支えているため，絵では水とともに青い色で表わされている。呪術師はアトゥン・ワイラの歌イカロを使って，アヤワスカの作用を駆使し，空，水，大地のヴィジョンを見る。また，悪い呪術師が攻撃してきた時など，悪い力を追い払う時にもアトゥン・ワイラを呼ぶという。

「アヤワスカ・ムスクイ」(Ayahuasca Muscui 1999. 2.24) という絵では，アマゾンの密林，川，そこに息づく動物や植物，そしてさまざまな精霊が描かれている。神秘の植物アヤワスカの蔓，鬱蒼と茂る樹木，水の母と呼ばれる大蛇と化した精霊ヤクママ，同じく密林を司る大蛇サッチャママ，呪術師の儀式を守るカワウソ，催眠力を授ける黒い豹ヤナプーマなどが，色鮮やかに写実的に描き込まれる。

「脳の神秘」(La Mística del Cerebro 1993. 9.21) と題された作品は，アヤワスカ茶が人間の脳に働く神秘を物語る。一般にアヤワスカ茶は，植物アヤワスカ (*Banisteriopsis caapi*) の蔓とチャクルーナ (*Psychotria viridis*) の葉から作られるのだが，この二つの植物が一つの宇宙を作る様子が描かれる。光線でつながった円や，アンテナのような記号は，外界の知識を得るための脳の働きを表わしているとアマリンゴは説明する。治療師たちがアヤワスカ茶を飲んで行なう，ある種の予測や診察治療の技を，シンボリックに図解化しているという。左右に，植物アヤワスカと植物チャクルーナの精霊が賢者として表わされる。中央に蝋燭の灯があるが，これは意識や無意識を輝かせる脳のセンターを象徴している。その灯火の根にはバラの花が描かれているが，「光を輝かせるために私たちが一番大切にしなくてはならないのは，愛であり，光の炎は，バラの花，愛の花から燃えている」とアマリンゴは解説し，このようにメッセージ性を含めた作品もある。

作品の具体例については，本人が作品について解説した付録解説を参照していただきたい（絵画作品 9 点の解説）。

アマリンゴはシャーマニック・ヴィジョンの絵画とは別に，アマゾン一般の動植物や風景などの写実画も描いている。それは，アマリンゴが主宰するウスコアヤール絵

画学校の生徒たちの作品の手本となっている。

なお，アマリンゴが使用している画材については，当初は入手が困難なこともあり，画用紙に水彩というシンプルな画材を使っていたが，最近はキャンバス地にアクリルも増えている。大きさは，比較的よく使用する画用紙に合わせて，新聞紙大のサイズが標準だったが，最近はより小さいものから2メートルサイズの大きなものまで，幅広く製作している。

3　海外におけるアマリンゴ作品の展覧会と評判

欧米をはじめとして，アマリンゴ作品は世界の約50カ国の美術館やギャラリー等で紹介されてきた（アマリンゴの説明によるが，正確な資料はない）。

1993年11月のマイアミ・ヘラルド紙で美術評論家ヘレン・コーヘンに，「パブロ・アマリンゴは，かつてシャーマンでヒーラーだった，世界で最も才能に恵まれた美術教育者」と評されているが，アマリンゴの作品は，なんといっても文化人類学者や民族学者からの注目度が際立っている。そもそもアマリンゴの名が国際的に知られるようになったのも，シャーマニック・ヴィジョンを描くように勧めた文化人類学者のルナによるところが大きい。ルナの専門はシャーマニズムや植物民族学の分野で，数多くの論文を発表し，アマリンゴの絵画作品に専門的な解説をつけた共著「アヤワスカ・ヴィジョン」を出版している（Luna and Amaringo 1991）。さらに，研究者という立場を越えて，当初はアマリンゴのマネージメントを行ない，展覧会や講演会のコーディネーターやキュレーターとして，幅広い活動をしてきた。アマリンゴのシャーマニック・ヴィジョンの作品の誕生と売り出しは，ルナの存在なしでは語れないといえよう。

また，15年にわたり西部アマゾンで先住民知識を研究しているカナダ人文化人類学者のジェレミー・ナービーは（スタンフォード大学博士号取得，スイス在住30年），次のようにコメントを評している。「パブロ・アマリンゴはシャーマニズムの研究において起爆剤となった。彼自身のヴィジョンを超現実的な絵画に表わし，誰もがそれを見ることができる。今まで文化人類学者は，シャーマンについて見解を記していたわけだが，大方はシャーマンの世界の実体験がなく，現象を真に理解することを妨げるような合理主義や分析的な思惑が前提となっていた。パブロ・アマリンゴの絵は，シャーマニズムについてもっと別の次元で論じている。特に重要なのが存在や意識についてであろう。90年代には意識について，科学的研究が真摯に取り組むべきフィールド

になってきた。アマリンゴとルナが結晶化した変性意識のイメージが，科学の歩みより先んじているのではないか，とも思われる。世界のインテリ層を負かしたペルーアマゾンの独学者に，また，自分よりもインフォーマントの方がよく知っていることを認め，共著を出版することに転じたルナに対して，心から敬意を表したい」。ナービーの著書で，シャーマニズムを理解するために，アマリンゴの絵が重要であるとして，紹介されている（Narby 1998）。

ペルー国内では，国連グローバル500賞で表賞されたこともあるが，ウスコアヤール絵画学校の校長として，教育者としての評判が先立った。アーティストとしては，地方の芸術文化が尊重されにくい国の社会事情もあり，海外での評判から国内でも知られるところとなったが，首都リマや，アマゾンの都市イキトスや，地元プカルパでも絵画展が開かれている。

以下，海外でアマリンゴ作品が出品された展覧会の一部を付記する。

＊ルナがキュレーターとして携わった展覧会等

－1999年：October Gallery, London

－1999年：*Visions That The Plants Gave Us*, The Richard F. Brush Art Gallery and Permanent Collection, St. Lawrence University, Canton, New York.

－1996年～1997年：*Rainforest Visions*, Museum of Man. San Diego.

－1994年：*Die Pflanze als Lehrer* (Plants as Teachers), Karl Ernst Osthaus-Museum, Hagen, Germany.

－1994年：*Rainforest Visions*, Capital Children's Museum, Washington.

－1994年：*Alteridades*, within the II International Congress for the Study of Modified States of Consciousness: Ethnocognition, Shamanism, Plants and Cultural Context, Spain.

－上記の他，1987-1994年，フィンランド，スウェーデン，ノルウェー，イギリス，ドイツ，コロンビア，ブラジル，ペルー，アメリカなどにおいて多数，アマリンゴ作品とウスコアヤール絵画学校の生徒作品の展覧会がルナによって開かれた。

＊アメリカなどでの主な出品展覧会

－ *Rainforest Visions*, Museum of Man, San Diego, CA

－ *People, Plants & Culture*, A Scientific American Library Volume, Michael Balick &

Paul Cox, New York Botanical Garden Scientific Department

- *Tree of Life*, American Visionary Museum, Baltimore, MD
- *Rainforest Visions*, Capital Children's Museum, Washington D. C.
- *Curved Rim of the Sky*, Gallery North, Miami, FL

4　日本におけるアマリンゴ作品の展示会等の発表活動

4.1　展示会活動を行なうに至った経緯

筆者は写真家として主に南米をフィールドにしていたが，90年よりアンデスやアマゾンで，植物と人間が織り成す呪術師世界について，独自に撮影取材を重ねてきた（永武 1995; 1996）。その撮影取材からアマリンゴと1991年に知り合い，アマリンゴが主宰するウスコアヤール絵画学校の支援を依頼されたことから，1992年よりアマリンゴとウスコアヤールの日本の窓口となり，日本における作品の発表活動を実施してきた。

ウスコアヤールでは，生徒たちが熱帯雨林の動植物を描きながら，感性を通して，自然や民話，自然の豊かさや大切さを学ぶという，美術による環境教育を行なう活動がなされている。その活動を通じて，地球サミットがブラジルのリオ・デ・ジャネイロで行なわれた1992年世界環境デーに，校長であるアマリンゴが国連グローバル500賞で表賞された。しかしボランティアによる学校運営は厳しく，欧米など海外からの支援に頼っていたため，日本でも展示会を開くことになった。

4.2　活動の実施内容

4.2.1　展示活動

日本では展示会を開き支援金を呼びかけるとともに，作品を販売し，売り上げを学校の運営にあてた。そのため，筆者が1992-1998に主宰したNGO「ペルーアマゾンの自然文化を支援する会」の活動の一つとして，NGO活動とも連動して展開した。

当初はルナが，アマリンゴとウスコアヤールの国際的マネージメントを統括していたので，実際の作業はルナと進めたが，1995年以降は，アマリンゴの要請によりルナ

を経由せず，直接やりとりする作業となった（主な展示活動については下記参照）。

NGO 活動と連動した展示の意図としては，国際協力と国際交流の一環として，多文化理解が主眼であった。多様な自然環境や，そこから生まれる異文化への理解を深めること，アマゾンの自然環境および環境問題への関心を高めること，理屈でなく美術を通じて感性による伝達を試みること，現地への支援に対する理解を深めてもらうこと，などであった。

その一方，アーティストとしてのアマリンゴ作品を発表する機会作りにも努めた。アマゾンの多様な自然や，そこから生まれる文化への理解を深めること，アマゾンの自然環境および環境問題への関心を高めること，という意図もあったが，ユニークな作品そのものを鑑賞してもらい，アマリンゴの世界にふれてもらうことが主眼であった。

展示作品は主に，アマリンゴが描いた呪術師や精霊世界のシャーニック・ヴィジョン，アマゾンの自然画，アマリンゴが主宰するペルーアマゾン絵画学校ウスコアヤール生徒たちによるアマゾンの自然を緻密に描写した風景画である。ただし，1998年のペルーアート展「アンデス，アマゾン，大地の力」においては，ペルーを代表する現代画家など，他のアーティスト作品と一緒に展示した。これは，作品をよりアートとして見せる環境作りと同時に，アマリンゴ以外のユニークなアーティストらとの出会いがきっかけで企画した。たとえば，やはり元呪術師という経歴のあるアグスティン・リバスの作品は，アマゾンの樹木の奇怪な根のフォルムを利用して，アマゾンの民話などをモチーフにしたユニークな木彫である。また，アマリンゴと同郷のアーティスト，フアン・オルシの作品は，アヤワスカの世界をバティックで表現し「アヤワスカ・ヴィジョン」と題されたものだった。

展示一般は，まず第一にわかりやすく知ってもらうことを主眼としたので，理屈よりも感じてもらえるように配慮した。ビデオ上映をして説明を加えたり，展示会場でアマゾンをイメージした音楽会や，現地報告の講演会等を同時開催したケースもある。会場も，市民活動や NGO 活動の一環としての展示会の場合はパブリック・スペースや，そのような活動に理解のある画廊やギャラリーでの展示が多かった。1998年のペルーアート展「アンデス，アマゾン，大地の力」が，初めて美術館相当の展覧会となった。

＊1993年-1998年　ウスコアヤールとアマリンゴ作品の展覧会や出品された展示会

1993年　　11月　「ラテンアメリカの夕べ」に出品。フォーラム横浜（桜木町）

1994年　2－3月　「密林のスピリット」フォーラム横浜（桜木町）
＊5月　「エコロジー展」木ノ葉画廊，西山画廊（神田）ペルー大使館後援
8月　「ウスコアヤール展」アマゾン民族館（山形県鶴岡）
8月　「ラテンアメリカ祭」出品。大倉山記念館。横浜市港北区主催。
1995年　3－4月　「ペルーアマゾン自然絵画展」相鉄ギャラリー（横浜市）
8月　「ウスコアヤール展」藤沢市湘南台市民ギャラリー（藤沢市）
1996年　＊1月　「ウスコアヤール展」ギャラリー清水（静岡県藤枝）
＊3月　「ウスコアヤール展」ギャラリートラックス（山梨県北巨摩）
4月　「ウスコアヤール展」ギャラリーえんじゅ（埼玉県大宮）
4－5月　「ウスコアヤール展」葉山芸術祭（神奈川県葉山）
6月　「密林のスピリット」湘南戸塚 YMCA（横浜市戸塚）ペルー大使館後援
11月　「密林のスピリット」フォーラム横浜（桜木町）
1997年　3月　「Spirit of Amazon」ギャラリー・ルデコ（渋谷）
＊10月　「Spirit of Amazon」京都外国語大学ギャラリー（京都）
＊11月　「Spirit of Amazon」大阪府島本町ふれあいセンター（大阪）
1998年　4月　「Spirit of Amazon」浜松クリエート（浜松）
＊10－12月　「アンデス，アマゾン，大地の力」展　出品フジタヴァンテ（千駄ヶ谷）
1999年9月－2000年1月　＊国立民族学博物館「越境する民族文化」展
（＊印は，パブロ・アマリンゴ作品がより独立したかたちで展示されたもの）

4.2.2　出版，メディア，講演会等など展示と連動した諸活動

展示と連動させて，メディアや出版，講演会などの活動も実施した。グラフ誌や新聞などにアマリンゴとその作品などを紹介したことから，1994年 NHK テレビの科学番組「脳と心」の〈無意識と創造〉の放映でアマリンゴが紹介された。同年エコロジー展の一環でアマリンゴとウスコアヤールの個展を東京で開催した折に，アマリンゴとルナ両者を日本へ招聘し，講演会を開催した。また，一アーティストとしてのアマリンゴをよりクローズアップさせるため，作品とその解説を付記するとともに，呪術師としての体験談や自然と共生するためのメッセージを込めたアマリンゴの著作『ア

マゾンの呪術師(シャーマン)』を刊行（1998）した。同じく1998年，東京で開いたペルーアート展の主要作品の一つに選出して展示。1999年にはアマリンゴをフィーチャーしたNHK教育テレビ番組のドキュメンタリーを製作し，ETV特集で放映された（「アマゾン，森の精霊にきく～元シャーマンの画家が描く神秘の世界」1999年6月24日放映）。また，1999年9月9日－2000年1月11日，国立民族学博物館で開催された「越境する民族文化」展に作品が所蔵され展示された。その折に，日本へ招聘し，講演会等を開催し，NHK教育テレビ番組「新日曜美術館」で展示会ともども紹介された。

＊日本におけるアマリンゴの講演会等

＊1994年5月（ルナと二人での講演）：「神秘のアマゾンの世界」アマゾン民族館（山形県鶴岡）；「アマゾン上流のシャーマニズムとコスモロジー」イベロアメリカ研究所（上智大学）；「元シャーマンと文化人類学者が語るペルーアマゾンのシャーマニズムの世界」アビラックスタジオ（水道橋）

＊1999年11月：「アートと民族文化の表象」プレシンポ研究会とギャラリー・トーク／国立民族学博物館；「アマゾン，森で生まれる文化とコスモロジー」東京経済大学；「ペルー・アマゾン呪術師の世界」スペース・オルタ；「パブロ・アマリンゴが語るアヤワスカとシャーマンの世界」オルタード・ディメンション研究会主催講演会

＊日本における主なアマリンゴ関連掲載誌，テレビ番組等

1992年　5.22『アサヒグラフ』
1992年　10.24　毎日新聞夕刊
1992年　5.22『アサヒグラフ』
1993年　2.28『毎日グラフ』
1994年　「脳と心」NHKテレビ科学番組放映
1994年　『脳と心』6巻　NHK出版
1994年　週刊百科『植物の世界』36号　朝日新聞社
1995年　『マジカル・ハーブ』第三書館
1996年　『アマゾン漢方』NTT出版
1998年　『アマゾンの呪術師(シャーマン)』地湧社
1998年　『アンデス，アマゾン，大地の力』求龍堂

1999年　「アマゾン，森の精霊にきく～元シャーマンの画家が描く神秘の世界」
6.24放映　NHK 教育テレビ番組 ETV 特集

1999年　国立民族学博物館「越境する民族文化」展カタログ

1999年　「新日曜美術館」12. 6 放映　NHK 教育テレビ番組

2000年　週刊百科『世界の文学』47号　朝日新聞社

5　アマリンゴ作品についての反響

アマリンゴ作品に対する鑑賞者の感想はさまざまである。無反応というケースは少なく，「奇妙だ」「恐い」「変な絵だ」「好みではない」というものから，「パワーを感じる」「曼陀羅のようだ」「ああいう作品こそが，本来の芸術というものだ」など，概して好き嫌いがはっきり分かつ傾向があった。宗教性を感じて惹かれる人もいた。アマリンゴ作品に関心を持つ人の中には，文化人類学者や民族学者の他に，ドラッグ文化や変成意識，ニューエイジに興味がある人たちからの反響が多かった。そういう意味では，アマリンゴ作品には，民族文化を越えたユニバーサルな要素があるのではないかと推察することもできるだろう。NHK 科学番組の「脳と心」の〈無意識と創造〉の部門で取り上げられたように，いまだ科学的に解明されていないような神秘体験や創造活動における脳の働きを暗示させるような要素が描写されていたり，見る側にそれを感じさせるものがあるのだろう。

ただし，アマゾンの呪術世界という，日本の生活環境や文化からかけ離れた世界であるがゆえに，理解されにくい部分も多かったことは否めない。

また，日本の美術館の学芸員からは，アマリンゴのシャーマニック・ヴィジョン作品の評価が得られにくかった。「ユニークで面白い作品であるが，美術としてはとらえがたい」というコメントがほとんどで，アートとして評価されないケースが多かった。ある美術館の学芸員は，「一つの美術館がアマリンゴ作品の展示に先鞭をつければ，日本でもアートとして認知されうるのだろうが，現時点で実施できる学芸員はいないであろう」とコメントした。

6　展示活動の反省点

実施した展示活動では，多くの反省点があった。以下に主な点を付記する。

まず，経費負担など準備段階での諸問題が多く生じた。限られた条件から，納得のいく広報活動や展示形態が実施できなかった。ボランティア・ベースで行なっていた環境整備の限界があった。そのため，来場者獲得のための手配も行き届かなかった。また，アマリンゴ作品とアマリンゴが率いるウスコアヤールの生徒作品とを同時に展示することが多かったことから，市民活動とアート展の明確な境界線をひきにくかった。したがって展示の主眼に常に曖昧さがあり，作品も独立したアートという見方をされにくい要素となった。さらに，日本人に馴染みのない民族文化世界に根ざしているモチーフなど，作品に表出される内容が複雑で，理解の難易度が高かった。その作品を理解したりわかりやすく鑑賞してもらうための工夫や対策を講じなかった。そして，支援活動と連動した展示，巡回展や類似の展覧会を繰り返したので，主宰者側のマンネリ化につながった。

全体としては，やはり資金問題など準備段階でのつまづきが多く，稚拙な展示が数多かった。市民活動の一環としてはやむを得ないことであったが，効果的にアピールするためには，目的を明確にし，ふさわしい手段を講じ，より多くの人に会場に足を運んでもらえるよう，充実した展示になるような創意工夫が必要であった。

7　展覧会・展示会の成果

展示会の成功もしくは成果を問うのはむずかしいが，過去に実施したり出品作業をしたりした展示会は，オリジナルでユニークな内容だったことから，一般には好評を得た。自然や文化の多様性，異なる文化を持つ人々への理解や寛容性を深め，相互扶助の意識を高めるきっかけの場を作る，という当初の意図に沿っていた。付随して，多少なりとも，自然環境への意識を喚起したことと予想される。また，小規模で地味ながらも発信し続けたことで，それが教育テレビ番組へ露出する機会を生んだのではないか，そして，それによってアマリンゴの持つメッセージ性を広く伝えられることとなった。テレビというメディアは，製作段階から納得のいきにくいことが多々あるが，伝播と影響が大きいので，展示活動との相乗効果をはかるためにも有効に活かせ

られることが望ましい。小規模ながら，海外の動きと同調し，地道な発信作業を重ねてきたこととユニークな展示活動は，一つの活性剤にはなったのではないか，と自己評価している。

文　献

Luna, Luis Eduardo and Pablo Amaringo
1991 *Ayahuasca visions: the religious iconography of a Peruvian shaman*. Berkeley, Calif.: North Atlantic Books.
永武ひかる
1995 『マジカル・ハーブ』東京：第三書館。
1996 『アマゾン漢方』東京：NTT 出版。
永武ひかる（構成・訳）
1998 『アマゾンの呪術師（シャーマン）』パブロ・アマリンゴ（語り），東京：地湧社。
Narby, Jeremy
1998 *The cosmic serpent, DNA and the origins of knowledge*. New York: Putnam's.

付録：展示作品の解説

1　シャーマンの飛行　El Vuelo de los Shamanes　1997. 3. 4 製作

呪術師は，霊的な時空を飛び交い旅をするという。その様子を表わした作品。以下アマリンゴの解説。

アマゾンの呪術師は，超感覚的な知識のレベルが上がると，飛ぶことができる。アヤワスカがもたらす空中浮揚によって空間移動ができるよう，精霊たちが呪術師に許可を与えからだ。そのためには，ムラヤや，スミルナなどの位にある呪術師でなければならない。ムラヤというのは超感覚的な予見者であり，スミルナというのは，火，大気，大地，水といった大地の最も基本的な4つの要素を司る強力な呪術師である。このような呪術師たちはアヤワスカでトランスに入る時，肉体が分離する。物理的な肉体から霊的な身体へ移行する。物理的なエネルギーがいまだ知られていない要素に変換する。振動する波動で，要素の粒子と一体となり，放射物のような身体を形成する。色を放ち，多次元的なコロナを形成し，100万分の1秒で宇宙の果てしない空間へ行くことができる。この過程を通して，呪術師は現在，過去，未来を見る。過去における未来，未来における過去を。だから精霊にとってはすべてが現在なのである。呪術師が私たちの大地を飛行する時には，光輝く虹のプロテクターを持っている。サイキックな力によって，私たちの物理的な目には見えない原子をぴかっと放つ。飛行する時に，体のまわりに光輝く虹がある場合，その呪術師は，聖性，自己統治，知識，叡智，悟り，愛，正義，平和，厳かな力などの崇高な精神力を備えるに至ったしるしだ。体のまわりを取り巻いている光輪があるが，これは呪術師が悪いことや病気などに対処して治す力があることを表わしている。良い呪術師であれ悪い呪術師であれ，持っている力を反映しているのであって，ある者は良いことに使い，またある者は悪いことに使う。このアストラル飛行で呪術師は，地球外の存在にも出会い，未知の別世界へ行く船に乗るよう誘われる。銀河系の中で彼等がはたしている機能を見せてくれるのだ。呪術師が地球の大気を飛行している時は，あたかも雷鳴が轟くかのような音を響かせ，慣れていないものを驚かせる。飛行をして，地球のさまざまな人種，文化，神聖な寺院などを訪ねたり，神秘的な所業を教えてくれたりする。

2　母なるアヤワスカ　Madre de la Ayahuasca　1994. 1. 16 製作

アヤワスカの精霊や伝説を中心に描いた作品。以下アマリンゴの説明。

アヤワスカの名は，ケチュア語で死者の蔓という意味だが，アマゾンの多くのインディオたちには，〈ヤチ〉という名前で知られている。ヤチというのは，〈ヤチャイ〉すなわち〈知性〉から派生した言葉で，〈知恵〉という意味だ。私がこの植物を使っていた時

に見たヴィジョンでは，この母なる植物は，エジプトの女性，アマゾンのシピボ族の老婆，別の王女のような精霊，王子，ノーム（童話などの小鬼，小人）などの姿でもって，私に現われた。エジプトの女帝のような姿で現われた母なるアヤワスカは，頭に7匹の蛇が立ち上がった虹の髪飾り，紫のブラウスを身につけ，胴から足先までが蛇行したアヤワスカの蔓だった。そこに緑色のコオロギがいて，この神聖な植物が壊されないように守っている。また，蔓には動物アチュニがいて，重大な病気，遠方での危険，敵には聞こえない音を感知する鋭い直感をもって知らせてくれる。通常，チクワと呼ばれる赤い鳥もいる。賢い鳥で，良いことであれ悪いことであれ前兆を警告し，アヤワスカを守っている。呪術師が飲み物を作るためにアヤワスカの蔓を切りに行く時，この鳥が「チス，チス」と鳴けば良いヴィジョンが持てるだろうと，良い徴候を知らせている。けれども，「チークワ！」と鳴けば，それは悪い知らせだから，そのアヤワスカの蔓を切ってはならない。足が見えるのは，大地の磁力とこの植物の主がつながっていることを表わしている。女性の左側は大地と結合させる原子に満ちていて，活力のある光，色，電子を放ちながら，中心核に分子活動をもたらしている。右手少し上方にはチャクルーナがある。曲がりくねって分子と混ざりあっている螺旋模様が母なるアヤワスカから出ていて，それがヴィジョンの感覚を増強する。上の網状の模様は，この儀式にいる一同を守っている。奥の方には，古代ティワナコ，クェラップ，インカ文化の至高の聖職者や古代の賢者たちがいる。その手前には動物たちがいる。不屈の精神を象徴するヤナ・プーマ（黒豹），催眠術を象徴する鹿，注意深く観察することを表わすアルマジロ，忍耐を表わすアリクイ。カピロナの木から出ている蛇は知恵を，カピロナの木に巻き付いている蛇は，アヤワスカのマリリの強さを象徴している。呪術師たちが座っている地面に見えるじゅうたんのような模様は，アルパ・ムラヤ（大地の下のムラヤ）が発散しているものだ。これらは，人や天使やモノの形をした金，銀などで現われる。そして，呪術師の知識に応じて，模様は振動し，大地や要素のことを教えてくれる。そのまわりには精霊たちがいて，精霊の歌イカロ，手当て，催眠などによって治療をする知識を教える。要塞の後ろ奥には，燃え盛る火の壁が見える。火は呪術師たちがいるところを囲み，公正な心があれば呪術師を浄化させる。暗い空には，三次元世界の銀河系からやってきた円盤がいる。スパイラルの形状をした要塞，塔やピラミッドなどは，磁力や電気エネルギーに満ちた古代からの聖地である。そこには，スミルナ，ムラヤ，バンコ，バンコ・プマ，ムスクイ・ルナ，シカンガ・ルナなど，古代の偉大なシャーマンがいた。これら要塞などは，医術，科学，文化を備えるための霊的な強さのシンボルだ。色とりどりの円形の床面は，宇宙に秘められたさまざまな知識を表わしている。

3　地中のシェルター　Caverna Protectora dentro de la Tierra　1991.10.25 製作

呪術師が治療儀式をする時に，悪い呪術師からの強力な攻撃を避けるため，大地の

中の霊的な避難所に逃れる，その様子を描いた作品。以下，アマリンゴの解説の要約。

呪術師が治療儀式の最中に，悪い呪術師の力を察知すると，大地パチャママ（ケチュア語で大地，大地母神の意）の奥深くに身をくらます場所を探す。助手の呪術師や患者たちとともに，避難所のようなその洞窟に身を潜める。そこには，邪魔しようとする魔術師などが入ってこれない。この避難所には霊的なトンネル状の扉があり，強力な精霊たちによって開かれる。絵にもそれらの精霊などが描かれている。

アシムと呼ばれる王子がいて，この空間をケアしている。この洞窟にいる者たちを活かすべく，酸素，空気，その他もろもろの代謝を与え，ここの環境に対抗できるようにしている。背に槍を携えたインディオのカシボ族は，部族の強力なシャーマンでかつ狩人だった祖霊だ。アワラと呼ばれるお化けの猿は，獰猛だがすばしっこく，敵の呪術的な武器な槍を取ってくる。プカ・サポマチャッコという赤い毒ガエルは，毒をまわりにまいて呪術師を守る守り手だ。呪術師の知恵に強い影響を与える空色と暗い青色の球があり，健康を守る。絵の中央に呪術師がいる。手を合わせ，一緒にいる精霊たちに敬意を表している。呪術師は治療師であるという印の白いオーラを発しながら，空中に浮かんでいる。そのまわりにいるのが，磁力の帯であるヤクママ（母なる水蛇）。鹿はとても神秘的な動物で，時には妖怪のような精霊に，またある時には人間に化ける。催眠力を持っているから，人の前にいるのにその人には見えないことがある。呪術師のまわりには，助手が精霊の歌イカロを歌って悪い呪術師の攻撃に対抗している。同様に，他の呪術師も，防衛力を高めるよう，イカロに合わせて力強く手を打ち鳴らしている。男女の呪術師たちは，この儀式が平穏無事にできるよう，地面を打ち鳴らし歌っている。絵の左側には，敵の毒を中和させるコンゴウインコ，コレケンケの羽をつけた偉大なマスター，マウカ・ルナがいる。この古代の賢人は，敵を調伏するよう，大地の磁力を微粒子で巻き起こし，敵をやっつける。ウスコ・ビルカ（精霊の親戚という意味）という精霊も，同じようなことをしている。

一方外界には，悪い呪術師の手先の動物がいる。右の上方には，トゥンチと呼ばれるお化け，パカ・マチンという鋭い歯があるお化け猿，ヤクパトリ（水鳥），スイスイ（青い鳥），サララ（赤いくちばしの黒い鳥），ハチドリのスパイ（悪魔のハチドリ）など。左側には，黒い線のある白い鳥のロンペ・モルトハ，ティベママ（鷲のような鳥），予兆する鳥チクワ。耳が大きいフクロウのランチナは，この鳥が鳴くと，誰かの死を告げると信じられている。

これらの動物はすべて魔術師が敵を攻撃するために使われる。

4　黒アヤワスカの酔い　Mareación de la yana-ayahuasca　1989. 9. 15 製作

アヤワスカにもいろいろな種類があるが，黒アヤワスカの世界を描いた作品。以下，アマリンゴによる説明。

ヤナ・アヤワスカ（黒アヤワスカ）は，ウカヤリ地方の密林では滅多に見られない蔓だ。とても毒性が強いから，ふつうのアヤワスカのようには飲めない。これを使えるのは，強力な幻覚作用を乗り切ることができる偉大なシャーマンだけだった。このアヤワスカによる酩酊作用は，たいていは黒か黒い青色で，時には暗い紫に変わる。人や動物など見えるもののまわりに，主に黄色や赤色のオーラが見える。黄色に緑と薄紫が混ざることもある。

中央上部には，霊界の長ケセルがいて，暗闇の中でも視覚をコントロールし，精神集中する呪術師に，暗闇の中でヴィジョンが見られるようにする。虹色に光り輝く貴石の衣服を身につけ，火の上を歩く。絵の中の呪術師たちは，理性を失ってしまうような眩惑と妄想を伴う酔いの状態にある。ケセルは，その作用に耐えられるようにサポートしている。この酩酊状態で呪術師たちは，暗い色や灰色のシルエットをしたグロテスクな怪物のようなトーテム象や精霊たちを見る。呪術師の左右にいるもの：上方には，流れの早い川にいる川の守り主，ケチュア語でヤナ・スマック・ワルミという黒い人魚がいる。その下は，湖と川など水世界の守り主ヤナ・ヤクルーナ。左端下方の黒い蛭は水界の生き物の養分となるサンギフエラ・ママ。その近くにいるとさかが赤い黒い啄木鳥は，その精霊の歌イカロによって，悪い呪術師の武器を取り除く。上方に，アマゾンの黒豹ヤナ・プーマがいる。大地の力のシンボルで，ごう音をたてて大地を震わせる。そのイカロは恐怖を治したり，誰からも呪いをかけられないような神秘力を与えたりする。中央にいるヤナ・ワルパと呼ばれる黒い鶏は，そのイカロがノスタルジーに悩む人や，胃腸が悪いを人を治すのによい。これは黒魔術のシンボルでもある。さらに上に，魚のワイラ・シルイがいる。この魚は大雨を伝って，天の雲を遡る。密林の水たまりに住んでいて，呪術師はこの魚を悪い呪術師に対するスパイとして使う。右方には，旅人のシンボル，黒い猿がいる。このイカロは，小さい子供の能力をのばせるように，また，人が病気にならないために使う。猿の上の鷺のような鳥はサララで，呪術師の守り手として，使者として使われる。右側上方には，ヤナ・ワカ（黒牛）。血の力を象徴し，そのイカロは血が足りなくて弱っている者を元気にさせる。妖怪たちは，この牛の角を恐れている。牛の下方には，ケチュア語でヤナ・マショと呼ばれるコウモリ。これに変身すれば，見ることもなくまわりに何が起きているかがわかる。黒猿の左下にる黒猫は，オカルトのシンボル。そのイカロは幸運に役立つ。コウモリの下には，ヤナ・ピシュコとかバカ・ムチャチオとか呼ばれる鳥がいる。この鳥は，誰かが呪いをかけたがっていると教える見張りや守り主として役立つ，護衛のシンボル。鳥の下にいるのは黒い犬ヤナ・アルコ。このイカロで，いい精霊か悪いものかがわかる。直感を研ぎすまさせ，敵や，体にしかけられた呪いの病気を調べることもできる。霊的知覚のシンボルとなっている。犬の下はヤナ・ヤクママ（黒い蛇）。催眠術を象徴し，そのイカロは人を呼ぶのに役立つ。商売にもよい。その上はヤナ・チャルパ（黒い河亀）。スミルナの地位にあるシャーマンは河の奥深く旅をする時に使う。河旅のシンボル。シャーマンの下には，あらゆる精霊のエネ

ルギーのシンボル，黒い石がある。

5　魔法の塔　La Pagoda Encantada　1991. 10. 20 製作

魔法の塔（Pagoda Encantada）と呼ばれる呪術師が訪れる聖なる世界の描写。以下，アマリンゴによる解説。

魔法の塔と呼ばれているところでは，人々を引き付ける才能豊かな長老たちが住んでいる。長老たちは，アストラル世界の人々を指導する権威と責任があり，知性を高められるよう，人生のためになる理解や知識などの教えを施している。私がヴィジョンを見た時，神秘的で霊的なこの寺院に連れていかれた。寺院は清浄で純潔そのものだった。真珠とダイアモンドでできていた。無礼を働けば危険にさらされる聖なる場所だ。誰も許可なくこの寺院の儀式に入ることはできない。そのために仕切りがある。ここに入るには，正しい霊的な知識，知恵，公正さ，清い心から生まれる率直さが問われる。霊的な人間性と謙虚な心がなくてはならない。そうすれば，輝かしく澄んだ神聖な神々の聖域に立つことができる。この塔は振動に満ちていて，他の世界へ通じる門とルートがある。長老たちはその守り手だ。まぶしいサファイアの衣服をまとった天使がいて，地球や他のさまざまな世界から偉大なシャーマンを迎える。魔法の塔では，アジア，ヨーロッパ，アメリカ，アフリカなど，あらゆる人種や民族の，霊的な人々を受け入れ，教えを授けている。また，神々の聖地の美のシンボルとして，喜びの合唱をするために，空気の精霊たちが集まってくる。燭台の間にいる長老たちは，イカロや神秘的な歌に囲まれていて，呪術師の息吹きに力を与える存在だ。この長老たちはアマゾンの呪術師たちにはヤチャイサパ・マウカ・ルナとして知られていた。妖術でもなく魔術でもない治療を施している位の高い呪術師スミルナに教えを諭す。スミルナ（水，大地，火，大気の4大要素を征する人物）になろうと思えば，原生林に一人で行き，3年から6年，誰にも会わずに修行をする。厳しいことには違いない。

6　精霊の力　Influencia Espiritual　1997. 2. 18 製作

アマゾンの精霊世界を描いた作品。以下アマリンゴの説明。

このヴィジョンの作品では，霊的な存在が物理的に表わされている。霊（魂）あるいは生命力の働きがわかる。霊は，呼吸すること，息吹くこと，吸気であり呼気であり，生命力または生きる力だ。中心の空間には，空から降りてくる霊的な人物が見える。部下の精霊に伴われ，電磁気の波打つ線の間を降りてくる。さらに上方には，中性微子の白い波がある。呪術師たちは治療をするために，さまざまな精霊に呼びかけ，力をもらって，患者たちに息吹きかける。息吹きかけられた患者は活力を蘇らせる。助手はアヤワスカの飲み物にさらに息吹きかけ，ヴィジョンがより明確になり力が増すようにする。呪術師の後ろには，シェボンというアマゾンのやしの木と，男女のシピボ族がいる。や

しの上の方には，シュラネ（シピボ語で“よい”という意味）というインカがいる。これらインカの死者たちは沈黙のエネルギーから立ち上がり，霊的作用で敵から呪術師を守っている。中央にはケラ・ルナとして知られる月世界の人（月の洞窟に住むお化け）がいる。中央下方には，初心者の呪術師がアヤワスカの精霊であるヤチ・プーマの頭を撫でている。その下には，水の蛇ヤクママ，倒木の後ろ手にはサッチャママがいる。この二つの蛇が，水と大地の敵から呪術師の儀式を守っている。倒木は大地の肥料を表わす。植物が成長するのに必要な養分となっている。この木の上にはトゥユユ（首のところが赤い白い鳥）がいる。左には森鳩がいて，これは敵の魔術の槍をすぐに取り去る。左側は，神々アルパ・ミン（土地を守る精霊）の聖域。この聖地には，スミルナ，バンコ，ムラヤ，シカンガルナなどの偉大な呪術師だけが辿りつける。この4種の聖者たちが住んでいて，霊感やさまざまな教えを授ける。公正さ，理解，愛，力，知恵，誠実，親切，意識，認識，自制などについて，霊性を高める方法だ。これらの聖者は，他の精霊に対する権威と力を持つ衣服をまとい，威厳の象徴である冠やターバン，そして長い髪と髭をたくわえている。

7　アヤワスカの聖性　La Santidad de la Ayahuasca　1997. 2. 6 製作

アヤワスカに関連する神聖なものへの敬い，呪術師の徳や植物の働きなどを描写するメッセージ性を含む作品。以下アマリンゴの解説。

アヤワスカは聖なるものであり，決して不敬に扱われてはならない存在だ。この植物の聖性は完全で，神聖な蔓と呼ばれている。夢を通してヴィジョンを与える他の植物とは異なり，行為の意識がある時にヴィジョンを与える働きがある。呪術師（シャーマン）とはこの植物が教える物事を司る特別な人間だ。患者を煽ぐのに使うシャカッパの葉，精霊の歌イカロで息吹きかけるパイプ，敵から身を守るための魔術の石，アルカンフォル，香水，香りのある聖水，タバコなど，呪術師が精神集中して使う特別な道具や，息吹きかけて浄めたものなども神聖なものとして扱われなければならない。呪術師が身につける衣，アヤワスカを飲む儀式，すべてがそうだ。患者が呪術師から指示される植物の薬や，断食や選別された食事についても，決して軽んじてはならない。この絵では，跪いた呪術師が腕を広げていく様子が見える。これは，聖なる存在に対する謙虚，帰依し敬意を表すること，神聖な叡智を授かることを表わしている。ダブルの立方体の祭壇は，友情のシンメトリーを表わしている。愛や美や真実のような特質を生むような人間的な意識，また，慈悲，自由，そしてとりわけ人間的な霊性の寛容さをもって，呪術師が教え導いていくことを表わしている。三角形の潅木はワルミ・サッチャ（女性の潅木）。その下の根には，理解の目がある。赤と黒のチェス盤の近くにはチャクルーナの潅木が並んでいる。呪術師の奥には，聖性と純正を表わす箱がある。精霊を伴い，アヤワスカの飲み物がある鍋を象徴している。箱から垂直に線が出ていて，その後ろに光の線が見

えている。そこは，宇宙の時空の根源となった物質が生まれ出るようなエネルギーが結集したところだ。この光冠は垂直の三角形の中にあり，思慮深い男女の知識を通じて発展する人間の科学を表わしている。少し上には，左右にメタトロンという精霊がいる（メタトロンというのは精神を通して働く霊で，精神はアストラル気体を通して働く）。この霊たちは，判断，根気，立案，他者への関心，意識といった抽象概念を形成するために必要な，経験を関連づける脳の神経を研ぎすまさせる。3つの三角形は神性の属性を象徴している。一番大きいものから順番に，愛，叡智，公正さを表わす。垂直な線は完全な法の力を表わす。左右のアヤワスカの蔓は，保護力，健康，豊かさ，幸福を表わしている。左右に同伴する木々が見える。右方にあるやしの木はアグアッヘで，聖性と美を表わす。その上の木はエゴノキで，豊穣のシンボル，その先はレモカスピで学習のシンボル，その横はウボスの木で健康を表わす。その横の木はティマレワで純粋を表わす。その木々の間には友愛を表わすレナコ。左側に移ると，木肌が斑なオヘの木は浄化を，その横はシリンガで強さを，一番左はセドロで，長寿を表わす。下方の呪術師のまわりには，6人の弟子がいて，師匠の呪術師を助けている。色とりどりの神秘力で，横たわった患者の病気治療ができるように守って世話をする。その後ろ手は，アマゾンの田舎の風景が見える。庭には，呪術師の力に役立つ動物がヴィジョンで現われている。サギの仲間のトゥユユ，カラチュパ・ママまたはヤングントゥロ（大きなアルマジロ），トゥンチ鹿，土から燃え上がる神秘の火，シャーマンに使える夜鳥のアヤプリット（赤い鳥），スイスイ（空色の鳥）などがいる。

8　海の精たちの電磁気 El Magnetismo Electrónico de las Oceánidas 1995. 2. 2 製作

海の精霊たちの世界を表わす作品。水，密林，大気を司る精霊のシンボル大蛇なども描かれている。以下アマリンゴの解説。

アヤワスカのヴィジョンで，海に住まう美しい女精たちの世界を見た。超化学的な体を持つ海の精たちで，水の下の奥深くの宮殿のような洞窟に住んでいる。そこで見たものは，鮮やかな色をした美しいサロン，見る者を虜にするルビーがはめ込まれた円柱の聖堂，シンメトリーの装飾で飾られた階段，金銀の糸で刺繍されたクッションの長椅子，光り輝く家具。色調の美しいベッドがあった。ベッドは平穏と愛に満ちていて，この深い水の世界を訪れた呪術師が，このベッドで休み，水世界の幸せな愛と神秘の科学に出会う。絵の左側にいるのが女精たちで，下半身に長い尾があって，人魚のように見える。だが，ズボンを脱ぐように尾を脱ぐと，ピンク色の繊細な皮膚が現われる。髪の毛がターコイズブルーをしているが，一人だけ明るい緑色の髪の毛をしているのが，美しく印象深い顔をした王女だった。彼女たちは，幸せそうにリズムにのって宙に体を舞いながら，楽器を奏で歌を歌う。後ろには，透明な分子に満ちた球状の力を伴ったヤクママと呼ばれる大蛇がいる。この大蛇たちが湖から出る時はお化けの夜船に変身する。その上

に原始林のサッチャママがいる。独自の電磁気で植物や樹木を守るから，密林の母サッチャママと呼ばれる。さらに上は星や風の母の化身の蛇ワイラママがいる。この神話的な蛇は雲の中を歩き，呪術師がアマゾンのしくみを知るのを助ける。人魚に変化しているつややかな蛇も見える。体から葉を芽吹き，深い水世界の環境を浄化している。宮殿には，振動するスクリーンがあった。そこから，宇宙の銀河や星々，地球上や世界のさまざまな場所を眺めることができた。また，現在，過去，未来も見れる。そして不思議な蛇がいて，スクリーンに届く光輝く波を放ち，スクリーンに磁気力が帯びるのを見た。この海の精が銀河を訪れる時，魚の尾のようなズボンを脱ぎ，精霊のように天高く空を飛んで旅をする。彼女たちは，アマゾンの呪術師たちが精神集中する時に常に存在し，治療をしている呪術師が危ない時に，救援に駆け付ける。

9　精霊の神話的な変化 Supai Unai Tucuna 1998. 7. 14 製作

この絵ではアマゾン精霊世界の，時間と空間における精霊の変化を表わしている。以下，アマリンゴの解説。

アマゾン熱帯雨林を取り囲んでいる水世界の精霊や偉大な主がいる。たとえば水の力を支配する〈ヤクママ〉。大蛇と化してその姿を現わし，さらに蒸気船となり，そこから虹を放っているのが，川の浜近くに見える。背の高い女に変身した川イルカが，大昔に津波で水没した“アトランティス”と呼ばれる古代都市の方へ歩いて行くのが見える。女の姿をした夢魔だ。また，肌が緑色をした水世界の人間ヤクルーナが白い人魚に伴って現われる。夜も更けた川の白浜に現われ，音楽の夜会を開く。音楽は魔術的で，人間が聞くと魂が虜にされてしまう。ピラミッドはそれぞれ，男性性と女性性，そしてそれらの力を象徴している。母なる魚のエイ，パンパムリでもある。これらは呪術師の水世界の寺院のようなもので，良きも悪しきもさまざまな呪術師がいる：ムラヤ，バンコ，スミルーナ，アマサンガ，シクアンガルナ，ウライルナ，サンガピーヤ……。これらのあらゆる人格は，良いことも悪いことも行なう。水の奥深くに住まう存在は，スンギと呼ばれ，水の強い精霊という意味だ。彼等は宇宙，銀河系，星々，惑星，月，衛生，大気圏などと交信している。絵の上方には，トゥカン鳥のような人間シクアンガールナが見える。この精霊は，魔術師や妖術師の呪いにかかった被害者を救済する。また，短命な人生と霊的な生命の位置を示す球体が見える。中央部上方には，大気の精霊とともに，いにしえの存在が見える。その後ろに，ヤナワマンルナの化身である黒い鷲がいる。その横に，呪術師の儀式が行なわれている家から現われたシエロ（天の）アヤワスカがいて，空飛ぶ円盤と交信している。一番右の上方には，宇宙のいろいろな成分にかかわる円盤がいる。また，偉大な呪術師に仕えるカワウソがいる。山岳の剣を持ち，それを口から出して，儀式中に近づいて悪さをしないように，敵に警告している。儀式がある家の後ろ手には，プンガという木が見える。これは，マリリ（魔術的な粘液）のシンボル

である。下の方には，呪術師とその弟子たちがいる。師匠は儀式を守っている蛇のような線とともに，頭から火を放って威力を示している。右横には，黒い豹ヤナプーマがいる。黄色い線が体にあるのは，催眠力を持っているからだ。少し上の方に見えるのは，鳥のような白いくちばしがある青色の魔術的な粘液マリリだ。また，パパストゥルエノと呼ばれる植物が見える。これは，稲妻にかかわる力を持ち，滅多に見ることができない植物だ。密林の母サッチャママと呼ばれる大蛇や，アルトマリカ，象の耳など，シャーマンの植物も見える。象の耳という植物は，熱い風呂に用いると，血液循環に良い。一番左の上方には，白い髭をたくわえた黒人の王が見えるが，これは公平を象徴する。また，アマゾン地方の夜空が見える。そこに浮かぶ月と星々は，川や湖や密林に影響を及ぼしている。宇宙のバイオリズムの中で，天体の運動機能や，天体の変化によって，あらゆる地球の生き物や要素に影響を与えている。